

第14回新市民会館整備等調査特別委員会会議記録

日 時 令和3年1月29日（金曜日）
場 所 水戸市議会 第1・第2委員会室

午後 1時32分 開議
午後 2時22分 散会

付託事件

(1) 新市民会館及び周辺地域の整備に関する事項

1 本日の会議に付した事件

- (1) 新市民会館の開館日等の変更について
- (2) 新市民会館の運営費等について

2 出席委員（27名）

委員長	渡 辺 政 明 君	副委員長	高 倉 富 士 男 君
委員	滑 川 友 理 君	委員	萩 谷 慎 一 君
委員	土 田 記 代 美 君	委員	田 中 真 己 君
委員	中 庭 次 男 君	委員	佐 藤 昭 雄 君
委員	綿 引 健 君	委員	木 本 信 太 郎 君
委員	後 藤 通 子 君	委員	田 口 文 明 君
委員	森 正 慶 君	委員	鈴 木 宣 子 君
委員	黒 木 勇 君	委員	飯 田 正 美 君
委員	小 泉 康 二 君	委員	大 津 亮 一 君
委員	須 田 浩 和 君	委員	栗 原 文 隆 君
委員	袴 塚 孝 雄 君	委員	五 十 嵐 博 君
委員	小 川 勝 夫 君	委員	安 藏 栄 君
委員	田 口 米 藏 君	委員	松 本 勝 久 君
委員	福 島 辰 三 君		

3 欠席委員（なし）

4 委員外議員出席者（1名）

議 長 内 藤 丈 男 君

5 参考人として出席した者（1名）

公益財団法人
水 戸 市
芸術振興財団
常 務 理 事
大 津 良 夫 君

6 説明のため出席した者の職、氏名

副 市 長 田 尻 充 君 副 市 長 秋 葉 宗 志 君

市長公室長	小田木健治君	政策企画課長	宮川孝光君
交通政策課長	須藤文彦君		
総務部長	園部孝雄君		
財務部長	白田敏範君	財務部参事兼 財政課長	梅澤正樹君
市民協働部長	川上幸一君	市民協働部 副部長	小嶋いつみ君
市民協働部 技監	太田達彦君	文化交流課長	三宅陽子君
新市民会館 整備課長	篠原芳之君		
産業経済部長	鈴木吉昭君	産業経済部参事兼 商工課長	長谷川昌人君
建設部長	渡邊雅之君	建設部技監兼 建設計画課長	大森幹司君
建築課長	大和田聡君		
都市計画部長	加藤久人君	都市計画部技監兼 泉町周辺地区 開発事務所長	大和直文君
都市計画課長	柴崎美博君		

7 事務局職員出席者

事務局長	小嶋正徳君	事務局次長 兼総務課長	関谷勇君
議事課長	永井誠一君	法制調査係長	富岡淳君
書記	武田侑未子君	書記	堀江良君

午後 1時32分 開議

○渡辺委員長 御苦労さまでございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから第14回新市民会館整備等調査特別委員会を開催いたします。
この際、御報告します。本日、一般傍聴人4名がお見えになりますので、よろしく願いいたします。

[傍聴人入室]

○渡辺委員長 本日も参考人として、公益財団法人水戸市芸術振興財団、大津常務理事に御出席をいただいておりますので、御了承願います。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、新市民会館の開館日等の変更について、執行部から説明を願います。

篠原新市民会館整備課長。

○篠原新市民会館整備課長 それでは、新市民会館の開館日等の変更について、市民協働部新市民会館整備課提出の特別委員会資料①により御説明いたします。

1、経過でございます。

本市では、新型コロナウイルス感染症の影響により、市税等の一般財源の収入が大幅に減少することが見込まれる中、全ての事業を対象として、緊急性や市民ニーズ等を十分考慮した上で、スケジュールの見直しや休止、縮小といった今後の方向性について、3か年実施計画を策定する中で調整を進めてきたところであり、新市民会館についても開館時期を見直すこととしたものです。

2、事業スケジュール及び開館時期でございます。

(1)事業スケジュールでございます。

ア、保留床の取得。新市民会館については、泉町1丁目北地区第一種市街地再開発事業により新築工事が順調に進められており、同事業に支障を来すことがないように、計画どおり令和2年度から令和4年度までの3か年の継続費で保留床を取得してまいります。

イ、備品の購入でございます。新市民会館については、ホール用の幕、照明器具、音響器具等の舞台関連備品や机、椅子、家具等の一般備品などを令和4年度末までに購入する予定でしたが、令和4年度における市の支出負担の軽減を図るため、備品購入の時期を令和5年度までとする調整を行いました。

(2)開館時期でございます。

経済団体や地域団体をはじめ、多くの団体から早期整備の要望をいただいていることを鑑み、夏休み期間における多くの市民の皆様の利用や様々な芸術文化活動などに支障を来さぬよう、令和5年7月の開館を目指してまいります。

説明は以上でございます。

○渡辺委員長 それでは、ただいま執行部から説明のありました内容等について、御質問がございましたら、発言を願いたいと思います。

萩谷委員。

○萩谷委員 私のほうから2点質問いたします。

まず、備品購入を1年後ろ倒しにすることなんですけど、これに係る費用というのはどのぐらいを見

込んでいるのかというのが第1点。

もう一つといたしましては、建設工事のほうなんですけど、これはいつまでに完了するのかということをもう一度確認させていただければと思います。

以上です。

○渡辺委員長 萩谷委員、建設工事というのは、いわゆる新市民会館がいつ立ち上がるか、出来上がるかということですね。

はい。じゃ、その2点ですね。

それでは、御答弁を願います。

篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

新市民会館における備品に係る経費につきましては8億円を見込んでおりまして、令和4年度までに3億円、令和5年度に5億円分の購入をしたいと考えております。

建物の完成時期につきましては、令和4年の10月末を予定しております。

○渡辺委員長 よろしいですか。

萩谷委員。

○萩谷委員 すみません。

もう一度確認しますが、後ろ倒しにするのは5億円のみということですね。そうすると、建設工事に相当なお金がかかっていくわけなんですけど、その程度の後ろ倒しで水戸市の財政負担が軽減できるのかどうか、その辺の査定というのはどういった考え方に基づいているのか教えていただけますでしょうか。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 お答えいたします。

備品購入につきましては全て一般財源になっておりますので、5億円を令和5年度に繰延べすることにより、令和4年度に関する一般財源の軽減が図れるということでございます。

○渡辺委員長 よろしいですかね。

田中委員。

○田中委員 私も2点聞きたいと思います。

今、令和4年度は3億円、令和5年度は5億円、合計8億円というお話がありましたが、開館に伴う費用として10億円程度は計画されていたように記憶をしているんですけども、そうではなかったのでしょうか。その辺についてちょっと確認させていただきます。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

今、田中委員がおっしゃった10億円ということですが、備品につきましては8億円、それ以外にいろんな計画をつくったりですとか、そういった経費として2億円を見ておりまして、10億円ということでございます。

○渡辺委員長 田中委員。

○田中委員 そうしますと、部分的に先送りはするけれども、基本的な予算を減らすわけではないという理解でよろしいですか。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 そのとおりでございます。

○渡辺委員長 田中委員。

○田中委員 そうしますと、それ自体は、私から見れば非常に小手先な対応ではないかと言わざるを得ません。

そのこととあわせて、以前の令和2年2月10日の第8回の当委員会の際に、説明の中で管理運營業務、それから開館準備をあわせて6年6か月、令和3年10月から令和10年3月までを指定管理にする方針であるという御説明がありました。これは、あわせてずれるということなんですか。それとも変わらないんでしょうか。

○渡辺委員長 ちょっと待ってください。

田中委員、この2番目の案件なんですけれども、新市民会館の運営経費等についてのところでダブるところがあるので、そちらでもう一度質問してもらえますか。

○田中委員 いいですけどもね。

○渡辺委員長 じゃ、そういうことで。それについては2番目の案件のときにほかと関連があるので、一緒に御説明のほうをお願いいたします。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 それでは続きまして、新市民会館の運営費等についての説明をお願いいたします。

篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 それでは、新市民会館の運営費等について、市民協働部新市民会館整備課提出の特別委員会資料②により御説明いたします。

資料の1ページを御覧ください。

1、新市民会館の運営費の算定でございます。

文化ホールの管理運営の実績のある複数の民間事業者からの参考見積りや設計事務所による光熱水費の算定等を踏まえて、運営費を試算しております。

表を御覧ください。

管理運営費のうち、人件費、施設運営費、施設管理費につきましては、民間事業者からの参考見積りを踏まえまして、3億8,000万円を見込んでおります。また、光熱水費につきましては、設計事務所による算定を踏まえて9,000万円を見込んでおり、管理運営費の支出といたしまして4億7,000万円を見込んでおります。

続きまして、管理運営費の収入になります。

施設を利用する際の利用料金収入につきましては、類似施設や民間施設の使用料等を踏まえて算定し、1億4,000万円を見込んでおります。

管理運営費の支出から収入を差し引いた額は、3億3,000万円となります。

続きまして、自主事業費につきましては、市の財政負担や貸館事業とのバランスなどを踏まえるとともに、類似施設の実績を参考に算定し、支出を1億1,000万円、収入額7,000万円を見込み、支出から収入を差し引いた額は4,000万円を見込んでおります。

管理運営費の差額3億3,000万円と自主事業費の差額4,000万円をあわせた3億7,000万円が、指定管理者に対する水戸市の負担額であります。この負担額を指定管理料の上限として、指定管理者の公募を行っていきたいと考えております。

なお、ページを返していただきまして、3ページに参考といたしまして、これまでの当特別委員会でお示しした運営費の算定の考え方に関する資料の一部を記載しておりますので、お目通しいただきたいと思っております。

続きまして、2、経済波及効果の試算でございます。

新市民会館で様々な事業を展開することにより、市内外から来館者を呼び込み、宿泊、飲食、交通機関の利用、観光土産品等の買物消費を促進するなど、新たな交流やにぎわいによる経済波及効果が期待されます。新市民会館の運営費、来館者等を基に、茨城県が公表している産業連関表を用いた経済波及効果分析シートにて試算した経済波及効果は、約48億円と見込まれます。

ページを返していただき、2ページを御覧ください。

3、指定管理者の選定に係る今後のスケジュールでございます。

今年度は、市民会館条例改正に係る議案を令和3年第1回市議会定例会に提出する予定でございます。令和3年度は、指定管理者の選定の手続について、特別委員会に御報告をさせていただいた後、公募により指定管理者候補者を選定してまいります。その後、指定管理者の指定について特別委員会に御報告をさせていただき、指定管理者の指定に係る議案を市議会定例会に提出してまいります。

また、指定管理者は、令和4年度から新市民会館の開館準備業務を行い、開館後、施設の運営を行う予定であります。このことから、各年度の予算に係る議案を市議会定例会に提出してまいりたいと考えております。

議会に御報告している事項については、適切な時期に特別委員会に御報告し、御審議をいただきながら開館に向けて業務を着実に進めてまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○渡辺委員長 それでは、ただいまの篠原課長の説明について御質問をお願いします。

まず、田中委員のほうから先ほどの関連でお願いいたします。

○田中委員 令和2年2月10日の第8回当特別委員会の資料では、今日の資料よりもかなり詳しく出ておりました、先ほど申し上げた期間のことですけれども、管理運営業務の期間が5年間、開館準備業務の期間が1年6か月、計6年6か月、令和3年10月から令和10年3月とありましたが、そのことが今日は記載がないんですけれども、この開館延期に伴う影響というのは、具体的にどうなのかは御説明いただく必要があるのかなと思ひまして質問をいたします。

○渡辺委員長 第8回のときのことなので、例えば変更点とか、その間に委員会の中でどのようなことで対

応してきたのか、その辺のところも含めて御答弁を願います。

篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

田中委員の御指摘のとおり、当特別委員会においては開館に向けてのスケジュールのほうを審査していただいております。その後、様々な検討を加えまして、今回お示ししました今後のスケジュールにつきまして、改めて御報告をさせていただいたところでして、指定管理期間中の準備業務につきましては、令和4年の4月から令和5年の7月オープンまでですので、それまでの間15か月の準備期間の後、そこから5年間の指定管理ということで考えております。

○渡辺委員長 松本委員。

○松本委員 この自治体負担額というものがございませぬ。これは、それぞれの都市と比較した表も出ているんですけども、水戸市の場合は、この参考の宇都宮市やその他の市と比べると、自治体負担額が1億円ぐらい高くなっているんですよ。大体概算でね。だから、これは要するに、例えばですよ、宇都宮市だったら県都の宇都宮市ですから、人口からいうと水戸市の約2倍近くはあるだろうと思っているんですよ。ですから、この自治体負担額が宇都宮市よりも水戸市が高くなるっていうことの根拠、これはどういうことなのかなっていうまず第1点をお答えいただきたいと思ひますし、また、前に戻っちゃうかもしれませんが、指定管理者が令和3年度、来年度に決定していくわけですよ。そうすることによって、この自治体負担額が減額になるのか、そういう要素が含まれているこの金額なのか、この辺もあわせてお答えをいただきたいと思ひます。

○渡辺委員長 ただいま松本委員さんのほうからですね、参考に出ている3つの施設との差が1億4,000万円ぐらいあるんじゃないかということで、ちょっと高いんじゃないかということだと思います。今の答弁は篠原課長のほうで大丈夫ですか。

じゃ、篠原課長お願いします。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、水戸市が高い理由ということでございますが、宇都宮市がオープンにしておりますが、人件費につきましては、正職員として17名がいらっしゃるというふうにかがっております。片や水戸市の新市民会館につきましては、事業推進計画をつくる際に新市民会館を適正に運営するためのモデル組織として、事業部門ですとか、貸館・広報・営業部門、舞台技術部門、総務経理部門における適正職員数ということで、約25名程度を想定しております、職員の数が多いうことが一つ考えられるかと思ひます。

新市民会館の開館時間が宇都宮市文化会館の開館よりも30分早く、8時半から開館することを考えますと、やはり人件費が高いのではないかというふうに考えられます。

また、水戸市の場合は、床面積が宇都宮市の1.12倍ぐらいございます。エレベーター、エスカレーターにつきましても、宇都宮市文化会館につきましてはエレベーターが3基、エスカレーターはないですが、新市民会館につきましてはエレベーターが7基、エスカレーターが10基あるため、保守点検に係る経費のほうが必要となってくるものと思ひます。

あともう一つ、光熱水費ということになるかと思うんですが、新市民会館につきましては、宇都宮市文化

会館やアルカスSASEBOなどと比べましても床面積が広く、水戸市新市民会館の特徴でありますやぐら広場やラウンジギャラリー、こどもギャラリーなど自由に利用できるスペースが広く取られているということで、光熱水費についても若干高くなっているということで考えております。

○渡辺委員長 あとほら、2番のいわゆる3億7,000万円は、今あくまでも試算でしょ。これは。

○篠原新市民会館整備課長 そうでございます。

○渡辺委員長 だから、例えば、正式な場合これからもっと安くなる、削減されるのかということ。

○篠原新市民会館整備課長 もう一つ、今回は、この金額をお示しさせていただいております。ただ、今、松本委員のほうから金額が高いのではないかとということで御意見、御指摘をいただきましたので、公募をかけていく前までにさらに精査を加えて、適正な金額というものを御報告させていただきたいと考えております。

○渡辺委員長 松本委員。

○松本委員 何かね、分かったような、分かんないような。ちょっと私のみ込みが悪いものですから、また同じような話になっちゃって申し訳ないんだけど、要するに、宇都宮市から見ると水戸市の新市民会館のほうで規模や設備が多いということを言いたいわけだな。それと、その開館・営業時間が長くなると。それによって人件費や光熱水費やそういうものがかかってくるということで、だから1億円も水戸市は多めに見ているんだということなの。平たく言うと。

私は1億円なんていうのはさ、だから宇都宮市と比較したとしたって規模は違うにしてもだよ、人口からして、利用からして、宇都宮市のほうが多いと私は思っているんだよ。人口も水戸市の約2倍ぐらいあると思うんだよ。それと比較して、何で1億円も高いのかと。こういうことを私は質問しているんだけど、人件費と光熱水費と設備が違うと。エレベーターが何基だとかそういう細かいことは私は聞いてないんだけど、資料でも出してくれればそんなのはいいんだけど、私は分かんねえんだもん、そんなものは。中身については。

だから、そういう資料があるのなら配ってほしいような気も私はするの。だから、要するに指定管理者が決まったらば、この金額っていうのは、もう揺るがない金額だということになっちゃうんでしょ。市報だの、広報だの載せちゃうって言うているんだから。

私は、若干の軽減というものがこの金額から出てくるのかなって思っていたの。だから、この辺のここが、私はちょっと一部引かかるような気がするんですよ。だから、これは私らもよく分からないので。

(「ちょっと委員長、関連で」、「この金額、期限今日で終わりなのか、これ」と呼ぶ者あり)

○渡辺委員長 今日の委員会に基づいて。

福島委員。

○福島委員 じゃ、ちょっと関連で聞きますが、1ページと3ページを比べれば、自治体負担額が水戸市は3億7,000万円なんです。宇都宮市文化会館が2億4,500万円。アルカスSASEBOが2億9,000万円。それでウエスタ川越が2億5,800万円なんです。そうすると3億7,000万円から2億4,500万円を引くと、1億2,500万円。そうすると、契約は5年間ですから、6億2,500万円。大事なことは、同等の規模で資料を出してきているわけですよ。宇都宮市と川越市とそれからアルカス

SASEBO。

だから、なぜこんなにかかるんだというのは、入札ですから、最初から3億7,000万円ありますよと。5年間で5億円も6億円も違いますよと。なぜこういう金額になったのかというのを松本委員が聞いたならば、エレベーターが多いからだとか何とか言っているんだけど、現実に水戸市が利用して、我々議会としては、少しでも無駄な経費がかからないことを望んでいるんですよ。ですから、納得できる経費ならしよがないんですよ。でも、3月あたりに募集して決めちゃうっていうことなから、逆に言えば、この金額で指定管理者を決めちゃうんですよ。だからなぜ水戸市は3億7,000万円で、例えば宇都宮市は2億4,500万円だと、1億2,500万円の差があるということの、委員長、資料を出してもらわないと、この数値だけでは納得がいけないんですよ。

これ、誰でも無駄な経費をかけなくて少しでもよりよい、そう言ったって、エレベーターがなくては階段では上がれないからエレベーターが必要だけど、そんなに経費のかかるほどたくさんは必要ないでしょうよ。

例えば、国技館なんていうのはね、もう外から全部下りてくるんですよ、何万人もが。だから、最低限、こんなに5年間で6億円も7億円も増えちゃうんですよというのは、今の時代に少しは市民の税金を思って負担額を少なくさせるのが、私は常識だと思うんですよ。だから、その辺も資料を出してもらわなければ分からないんですよ、委員長。

〔「委員長。一緒に関連なんて聞いちゃっていいですか」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 いいですよ。その前に、ちょっといいですかね。

篠原課長、今、3月に公募って話になっていたけど、3月には公募しないでしょう。ですから、そこだけは確認してくださいね。

それと、資料の件も含めてなんですけど、この3億7,000万円という数字の積算根拠みたいなものが明確じゃないということで、資料も出してほしいという福島委員さん、また松本委員さんの質問は正当で正しいのかなと思います。したがって、この根拠を出してもらいたいよ。いわゆる今ね、エレベーターの数とか、例えば8時半から開館だからここから見ると30分早いと。じゃ、夜はどうなのと。そういうのも含めて説明してもらわなきゃならないし、光熱水費が9,000万円なんだよ。水戸市で負担するのが。1年間の光熱費、下水道費、水道費も高くなっちゃっているんですよ、これね。だから、その辺のところも含めて、これが試算ではあるにしても、本当にしっかりしたものを出さないと、御理解をいただけないというふうに私も感じておりますので、部長どうなんですか、その辺のところ。資料をもう少し正確なものを出してもらいたいということなので、その辺について御答弁ください。大丈夫ですか。

はい、川上市民協働部長。

○川上市民協働部長 ただいま種々御意見をいただきました新市民会館の運営費等につきましては、改めて執行部内で精査し、具体的な数字について整理し、改めて御報告をする機会をいただいてまいりたいと思いますのでよろしく願いいたします。

○渡辺委員長 福島委員、そういうことでそれが出た時点で。

福島委員。

○福島委員 あのちょっと一言だけ。何も使わない時間の経費というのが一番大事なんですよ。というのは、

会場で60万人を要するところ、大ホールを使うのは、1週間に1回か2回なんです。それから会議室も昼間だけで何時間も使わないわけですよ。それとそういう維持管理費の中で、何日間も使わないとそこところは、どのくらい電気代がかかるのかと。

例えば、大ホールに5,000席の椅子を自動的に出す装置があります。そういうものを1回入れるとおのずと電気がかかります。けれども、その電気を維持するには、使わないときの時間のほうが経費がかかるんです。だから、使わない時間が大体8割あると思うんです。そういう経費がどのくらいかかるのかというのが一番大切な部分。誰もが計算できるのは、使うときは設計屋さんが時間当たり幾らですよっていうのは計算できるんです。すると全体的に使わないときの時間が8割ぐらいある。真夜中を通じてですよ。それに対する管理費っていうのは、ガードマンとか無人カメラとかいろいろあるわけですので、そういう使わないときの経費がどのくらいかかるのか、どうせ出すんですから。これは設計屋さんに聞けば分かりますから。それで出してください。

○渡辺委員長 今、福島委員の質問等も踏まえながら、かなり精度の高い、また、皆さんに御理解いただけるような資料をお願いしたいと思います。

須田委員。

○須田委員 資料を出すということなので、その前に整理しておきたいことを確認させていただきたいと思っています。

先ほどの説明。何で宇都宮市さんと自治体負担額が1億円以上変わるんですかというのは、当然面積が水戸市のほうが大きいですよ、管理面積が。それに伴って、もしくは構造上の問題でエレベーターが多いんですよ。それから、そういう各種団体の要望によって、恐らく30分早めに開館しますよというその時間の問題。

また、面積が大きいし、その運営をきちんとしていくに当たって職員が約8名多いということが大きな要因だということだと、そういうふう聞いています。8名多いということは、当然ながら何千万円も違うわけですから、そういうところで約1億円の数字も出てくるのかなという気もしますが、同等の規模のものということで資料を出してきました。

そうすると宇都宮市さんは小さいんですよ、水戸市より。ある程度。

それから、アルカスSASEBOさんは大体一緒じゃなかったんですけど。そうでもないんですけど。そうすると、宇都宮市さんとの比較じゃなくて、今質問の答弁を聞いていましたけれども、そうするとウェスタ川越さんもしか見た感じがちょっと小さいような気がするんですよ、私からすると。そうすると、そこと比較しても当然水戸市のほうが高いのは当たり前でしょというのは、私はよく理解できちゃう。

ただ、アルカスSASEBOさんってたしか一緒ぐらいかなと思うんですよ。そこの比較によって1億円も違うよっていうのは、あれ、もうちょっと何かなかったのかなという気がするし、私の勘違いだったらすみませんね。アルカスSASEBOさんも随分小さいんだよと、水戸市より。だったらこれはいろいろあるでしょうし。職員の十分な適正配置をするには、もっと必要だったという水戸市の考え方もあるでしょうし。そう考えると、その水戸市よりちょっと大きいものというのはないんでしょうかね。そういうものとの比較を見たいんですよ。

取りあえず、出ている資料の中でアルカスSASEBOさんとの比較でもどういふふうに違うのか、先ほどの宇都宮市さんのような感じでちょっと説明いただければ理解しやすいかと思うので、その部分だけ今日の資料で教えていただいて質問を終わります。

○渡辺委員長 今、須田委員さんのほうからね、今、出されているのは規模で言うと水戸市と同等か小さいところなので、水戸市より大きいところだね。

○須田委員 水戸市より大きいところ。

○渡辺委員長 大きいところなんかと比較するような資料があったほうが検討しやすいということなんですけれども、篠原課長、そういう資料をお持ちなんですか。この3件だけじゃないんでしょ、調査しているのは。

○須田委員 委員長。後でその整理して資料が出たときでいいですから、一緒にやってくれますよね。

○渡辺委員長 この次のときに一緒に出したいと思うので、出せますか。

○篠原新市民会館整備課長 次に出させていただきます。

○渡辺委員長 それでは、次に出していただくということで。

袴塚委員。

○袴塚委員 すみません。私のほうからもちょっと指摘をさせていただきたいんですが、今回資料を出していただいてありがとうございました。それで、支出というところで委託料になると思うんですけども、管理運営費の中で、水戸市は4億7,000万円。それで、ほかは3億6,000万円、3億4,200万円、3億1,500万円とあるんですけども、この中で、ちょっと考え方が違うのかなというのは、人件費とか運営費というのは、これをやりたいっていう人が考える話で、どんなふう運営するかっていうのはね。水戸市としては、こういうふうな運営をお願いしたいですよということで考えていけばいいのかな。ここで、思いやり予算というのは、ちょっと私は要らないのかなと、こういうことが一つあります。

それからもう一つですね、利用料金収入に対しての支出のパーセントがウエスタ川越さんと宇都宮市さんは、36%、37%あたり。そして、水戸市は29%で見ているんですよ。ということは、大きな会館を造って頑張っているんだけど、売上げは上がんねえよとそういうことになっちゃうんだよ。それを最初から水戸市が見込んで、持ち出し分を計算すべきかどうかというところが一つ問題がありますよね。こういうことです。

それからもう一つ、自主事業についても、アルカスSASEBOさん、それからウエスタ川越さんは、約70%から76%ぐらいの収益を考えている。ところが、水戸市の場合には63%ぐらいしか収益が上がらないよねっていう。水戸市の考え方は、人口が少ないから消極的になってしまうのかも分からないけども、やっぱり、売上げが上がらないことを考えて水戸市の負担率を考えるということではなくてね、頑張っただろうだよと、これだけいい施設を造ったんだから金はどうかるはずだよと。貸館事業でも何でもばんばんやっただよ。

したがって、水戸市の自治体負担額は、例えば、今、総額で3億7,000万円となっていますけれども、これを精査すると年間の負担額が2億円台になるんだよ。そういうふうなこともあるので、この数字をもう一度精査される場合にはですね、今のようなどころももうちょっと頑張っただよ。それから、従業員さんの使

いはあなた方次第で、例えば早朝に出る人もいれば、短時間だけ出る人もいれば、そういう人を配置すれば、このぐらいでいけますよねっていうそういうことも考え方の中に入れてないと、全部が全部、正職員でこうだあだっっていうような企業は、今はどこにもありませんから。同一労働、同一賃金ということだけでも、そういうものを配慮しても、やっぱり人員配置というのはある程度考え方を柔軟にしていかないと、こういう施設っていうのはなかなかうまく運営できない。こういうことだと思いますので、しっかりその辺も頭の中に入れて精査をお願いしたい。

以上です。

○渡辺委員長 答弁はよろしいですか。

やっぱり皆さん方も、もっと当事者意識を持ってもらって、例えば、コンサルさんの意見なども聞くんでしようけれども、また、その辺のところをしっかりと自分たちの新市民会館なんだという意識を持って対応してくださいよ。お願いします。

飯田委員。

○飯田委員 今の議論に関係するんですけども、この管理運営費の積算の中で、人件費とか施設運営費、施設管理費が3億8,000万円とこう出ているわけですが、3ページを見ますとその内訳も上のほうに出ております。私が質問したいのは、この3億8,000万円のうち人件費は幾らで、施設運営費は幾ら、施設管理費は幾らと3つに分かれているものですから、この内訳がどのようになっているのか。

それと光熱水費も同じですね。電気使用料金とか水道料金、下水道使用料、都市ガス料金と分かれています。この内訳がどうなっているのか。

今日答えられるのであれば答えていただきたいし、もし難しいのであれば一緒に皆さんと同じ資料の中で答えていただいても結構です。

あと、経済波及効果の試算なんですけど、これはここに書いてありますように、開館することによりまして、来館者を呼び込んでいく中で、その宿泊とか飲食とかお土産品とかそういった消費が促進されるということで、この茨城県産業連関表を用いたシートを使って試算したとあるんですけど、約48億円となっていますね。さらりとこうなっているんですけど、せっかくシートを使っているのであれば、これも次回でいいですけども、中身をやっぱり出していただければよく分かるんじゃないかと思います。

と言いますのは、自治体負担額が3.7億円で経済波及効果が48億円で、何か48億円のほうが高いものですから、これでいいのかなとこうちょっと思ったりしますけれども、それは余計なことですが、そのシートの資料を次回頂きたいと思うんですけども。

あと、付け加えると、宇都宮市とかアルカスSASEBOとかウェスタ川越でもやっぱり同じようにこういった施設を造るときに、やっぱり経済波及効果の試算をやったと思うんですけど、その辺りの他市の3つの試算もあれば一緒に数字をいただきたいと思います。

以上です。

○渡辺委員長 篠原課長さん。積算根拠の内訳が出せれば、それについての資料と、それと波及効果が48億円の積算根拠。委託資料があればけれども、要はこの今の皆さんの意見は、差が出てくる大きく違うものは何かということで、ここまで出てきたけれどもそれがもっと分かりやすい、例えば、これが大きく

違うのでこんなにお金が違うんだというような形。要は全体的な光熱水費なんかと比較すると、その分だけでも大きなものでそれ以上に差があるわけだから、その辺のところをよく踏まえた分かりやすい資料をお願いしたいと思います。

それでは、土田委員さん。

○土田委員 まず、1番のほうで聞きます。

質問は先ほどのことであります。

管理運営費の収入部分のところの比較なんですけれども、利用料金収入1億4,000万円という数字が出ています。

参考資料のほうで宇都宮市、アルカスSASEBO、ウェスタ川越と出ていますけれども、大体1億円、水戸市より低くなっています。ウェスタ川越はちょっと私は分からないんですけれども、宇都宮市文化会館、アルカスSASEBOにつきましても、結構稼働率がよくて回っている会館です。特別委員会でも資料が出されましたけれども、大ホール2,000席の稼働率が、宇都宮市文化会館は80%と出ています。アルカスSASEBOも76%。こうした高い稼働率で回しているところでの利用料金収入よりも、水戸市利用料金収入のほうが高く見込める理由は何でしょうか。それが1つです。

○渡辺委員長 じゃ、使用料の算定の根拠だね。

いずれにしても、ちょっと今日は資料不足なので。

篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

水戸市と宇都宮市文化会館を比べますと、まず、大ホール並びに小ホールがあるのは同じでございますが、水戸市の新市民会館につきましても、会議室、スタジオ等、貸館をする部屋が豊富でございますので、そちらの利活用を図ることによって収入が増えると考えております。

○渡辺委員長 土田委員。

○土田委員 そうですか。そうしたら、取りあえず大ホールの稼働率は何%ぐらいを目標にしていっていったんでしたっけ。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

70%を想定しております。

○渡辺委員長 土田委員。

○土田委員 分かりました。

はっきり言って、ちょっと夢物語だと思いますけれども、次の質問をもう一つ、自主事業費について伺います。

今日、水戸芸術館の天津常務さんがいらっしゃっているということで、水戸芸術館さんでは今、自主事業費の支出はどのぐらいになっているんでしょうか。

○渡辺委員長 天津常務。

○天津公益財団法人水戸市芸術振興財団常務理事 ただいまの土田委員の御質問ですけれども、水戸芸術館

の事業は、平成22年から令和1年までの10年間の平均でちょっとお話ししますと、事業費としては3部門をあわせて4億2,000万円です。それに対しまして、収入が入場料収入とか文化庁からの助成金収入、そういうものを平均しますと、2億2,000万円の収入がございます。ですから、4億2,000万円の事業費で2億2,000万円の収入があると。ですから、一般財源としては毎年2億円程度支出しているというのが水戸芸術館のほうの状況です。

○渡辺委員長 土田委員。

○土田委員 ありがとうございます。

水戸芸術館さんのほうでは、大体4億円ぐらいでやっていらっしゃると。その何倍も大きい新市民会館でやっぱり1億1,000万円程度しか見込んでいないと、それでどんな自主事業ができるんでしょうかという疑問があります。この自主事業費の1億1,000万円は、何をやるつもりでの1億1,000万円なんでしょう。

○渡辺委員長 大津常務理事。

○大津公益財団法人水戸市芸術振興財団常務理事 私の考えということで、ちょっと水戸芸術館側の考えということでお聞きいただきたいと思うんですが、まだ新市民会館と水戸芸術館でどうい事業を連携していくのか、具体的にあっておりませんが、これから、至急そういう事業計画について具体的に検討してまいりたいというふうに思っています。

その中で、市民の皆さんとか委員の皆さんが楽しみになるような事業を幾つか組んでいければなというふうに考えているところです。

ですから、新市民会館の収入をできるだけ確保する上で、水戸芸術館もこれまでの経験を十分伝えまして、なるべく収入が増える、そういうような運営に持っていきたいというふうに考えてございます。

○渡辺委員長 土田委員。

○土田委員 ちょっと大津常務さんに答えていただいたんだけど、私が聞いているのは水戸芸術館の話ではなくて……

〔「あなたが芸術館と言ったから芸術館の話をしているのよ」と呼ぶ者あり〕

○土田委員 水戸芸術館では、いろんな事業をされて4億円もやっていますと。それよりも大きい新市民会館で、芸術館の4分の1くらいしかないお金でどんな自主事業ができるつもりなんですかと、篠原課長さんに聞いているんですよ。

〔発言する者あり〕

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

令和2年10月23日の当特別委員会において、新市民会館の施設の概要や自主事業の考え方を御説明させていただいております。

新市民会館の行う事業は、利用希望者に施設を貸し出す貸館事業と施設の運営主体が自ら企画立案を行う自主事業に分けられます。新市民会館では、市民が芸術文化に触れる機会を広く提供するため、地域からも

要望の高い公演やイベントなど自主事業を主体的に実施していきたいと考えております。

○渡辺委員長 土田委員。

○土田委員 そんな様々なことがこの予算枠でできるんでしょうかという疑問でした。

結構です。

もう1点お聞きします。

2番のほうで、飯田委員さんも聞きましたけれども、経済波及効果の試算の数字で、基本的な質問で申し訳ないんですけども、この48億円というのは年間で見るんですか。1年間に48億円ということですか。

○渡辺委員長 篠原課長。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

年間でございます。

○渡辺委員長 田中委員。

○田中委員 先ほど質問したんですが、質問したことにしてもう一度質問します。

私がこだわっているのは、令和2年2月10日の第8回の委員会説明と今日の説明で、ちょっと納得がいかないところがありますが、今申し上げた第8回的时候には、実際の施設や設備を利用した操作の習熟、リハーサル、避難訓練、内覧会開催などのため、開館前に半年程度の期間を確保する必要がありますと、こういう説明があるんですよね。そうすると、今日の説明では令和5年度のほうに照明器具、音響器具など、いろいろ入れるのを先送りするわけですよね。そうすると、その準備ができないんじゃないですかと思うんですが、それで7月オープンというと4か月しか準備期間がないんですけども、搬入したらもうオープンと。そういういろんな習熟などはできないんじゃないかという質問です。

○渡辺委員長 いわゆるインターバルの期間はどうなんだということですか。

明確にお答えください。

○篠原新市民会館整備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

田中委員御指摘の、習熟が必要な備品、そういったものにつきましては、令和4年度中に十分な習熟期間が取れるように整備をしていく予定でございます。

○渡辺委員長 それでは、ちょっとお諮りしたいんです。今日はちょっと資料不足ということもありますので、次回、もう少し詳しい資料を基に皆さんの御意見を聞きたいと思っておりますので、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○渡辺委員長 それでは、そのようにさせていただきます。

参考人におかれましては、大変お忙しい中、御協力をいただきまして、まことにありがとうございました。

以上をもちまして、本日の特別委員会を散会します。

御苦労さまでした。

午後 2時22分 散会